



巻頭言

反則に想う

財団法人 日本植物調節剤研究協会 評議員 安岡 健
社団法人 緑の安全推進協会 専務理事

私は、スポーツ愛好者の一人です。

書き出しから私事で恐縮ですが、失礼はお許しただくこととして、学生時代に熱中した競技生活を振り返り、昨今の農業業界について感ずるところを述べてみたいと思います。

最近は専らテレビ観戦で怠けておりますが、学生時代はスポーツ万能で、高校、大学を通じ、選手としてインターハイ等公式戦も多数経験しました。高校では陸上 800m を、大学では Boxing をやりました。何れも苛酷な個人競技種目で、個々の直接対決になることから、自分自身との葛藤も大きいものがありました。

社会の秩序、生命を守るために法律があるように、スポーツ競技にも生命の安全を守り公平に技を競うためのルールがあり、また、ルールがあるから競技が成り立っていることはご承知のとおりです。特に、格闘技では生命に危険が生じるため、反則行為は絶対に許されないことです。反則は恥辱であり、競技者としての資格を剥奪されるケースもあることから、殊のほか厳しく指導されていました。勿論、反則には厳罰が課せられますが、それ以前に反則行為をしないこと、出さないことが大事です。ルール設定の目的は罰することではなく反則行為をしないことにあります。

最近、技術が高度化したためか、反則に対するペナルティが甘くなっているのが気になり、

もっと厳罰で臨んでほしいと思っております。

野球における危険球などは、故意の要素も強く、即退場は当然であり、出場停止も長期間にすればよいと思っています。

何はともあれ、法律ルールは守らなくてはならないし、順法が精神が何よりも重要であると思っております。

さて、長引く不況の影響で、政治、経済、社会が混沌としています。農業業界も需要が停滞するなか熾烈な競争が続いており、流通段階での混乱を生じております。

無登録農薬の流通量の増大、農薬の登録外使用等々の反則事例が目立ちます。このような状態が続けば業界の大混乱を招き、安全問題に対する基本をゆるがすことになり、危機すら感ずる昨今です。逆にフェアな競争は、業界の発展につながるところです。技術力、営業力は大いに競って欲しいところです。

かかる状況の進展を止めるためにも、業界として、コンプライアンス体制の構築が急務であります。また、守らせる仕組みの構築も必要と考えます。

最近は、これらの状況と学生時代の体験と重ねるとき、一種のノスタルジーを感じております。これは老化のせいでしょうか、あるいは適性の問題でしょうか、多分、後者なのかもしれません。